

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201192		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム ハートかしわ		
所在地	千葉県柏市高田1032番地1		
自己評価作成日	平成31年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成31年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりが心豊かに過ごせるよう支援している。デイサービスや特養と連携を図り利用者個々の機能向上に努めている。常に開かれたグループホームを目指している。また利用者様 全員を往診医に切り替え、緊急時などにも対応している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームハートかしわ」は静かな住宅地にあり、特別養護老人ホーム・通所介護施設が併設されている。日頃から併設施設とは行き来が行われており、レクリエーション参加や合同行事にて交流を図っている。また、併設施設のイベント開催時には地域住民や家族を招待し、外部との交流及び同年代の交流を通じて、入居者の生活活性化に繋げている。併設の特別養護老人ホームやデイサービスの看護職員による医療面での相談・助言・対応が行われていると共に、急変時や重度化における連携及び協力体制も確保されており、入居者や家族及び職員の安心に繋がっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会に根ざした施設として地域と共生する、入居者が安心できる生活、生命を最大限に保障する、敬愛を持って接遇する、ニーズに即応するを主眼とした法人の理念を掲げていると共に、毎年、事業所の目標を職員全員で考案している。	法人理念に「望まれる施設」、施設理念に「主体性の尊重・家族の一員として生活する」を掲げると共に、玄関に掲示し、内部・外部の人達への周知を行っている。年度毎に職員間で話し合い、目標を設定している。	今年度は、内部研修の実施回数が少なく、理念の周知及び確認を行う機会が無かった。今後は、施設理念及び方針を確認する機会を増やし、職員への理念浸透及び理念に基づくケアの実践に取り組んで頂くことを奨励します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設全体で地域住民を交えたイベントがある。	日頃から近隣住民とあいさつを交わす関係を築いており、地域との交流を促進している。また、ボランティアの受け入れや併設の特別養護老人ホームとの交流の機会を設けており、入居者の生活の活性化に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	疑問、質問については説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成30年度は職員一同が集まったの会議はできていないが、都度利用者、家族等と話し合いを行いその意見を取り入れ日々のサービス向上に生かしている。	今年度は人員入替の為、運営推進会議の開催は行われていない。	来期は、運営推進会議開催の計画・実施に向けて取り組むと共に、市や地域住民への参加の呼びかけや協力を仰ぎ、有効な会議の実現に向けて取り組んでいただく事を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会に加入しており、連絡会を通じて市に意見や要望を提出している。また、市に対して業務全般における相談や連絡を随時行い、連携を図っている。	日頃から市に対して報告や相談を行い、随時連携を図っている。また、市のグループホーム連絡会を通じて市や同業者との意見・情報交換を行っている。	

【千葉県】グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的に取り決めをしている。玄関は自動で施錠されるようになっていて解除方法も説明しており自由に出入りできる。	身体拘束排除・虐待防止等におけるマニュアルを整備すると共に、入居者の状況や支援方法を会議にて周知・検討を行い、全職員が支援方法の統一に向け取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、安全確保を心掛け、入居者の自由な生活を支援している。	定期的に身体拘束排除における外部研修の参加・内部研修の実施・指針の作成を行う他、法人内の委員会等に参加し、より適切な支援に向けた質の向上に取り組んでいただく事を望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加したり、併設特養に虐待防止委員会があり、虐待について学んだり防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はもっているが、今のところ活用する入居者はおらず支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接での説明及び契約時の重要事項説明書により、十分に行っている。退居時ご本人、ご家族が納得されるまで話し合う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話連絡時に意見・要望を確認している。挙げた意見や要望においては、職員間で周知・検討を行ない、適切な対応に努めている。また、外部からの意見も参考にサービスの質の向上に努めている。	家族の面会時・電話連絡時等を活用して、意見・要望等の確認を行っている。また、施設広報誌にて施設活動や入居者の様子を報告する等、施設の透明性確保及び施設理解の促進に努めている。挙げた意見・要望等においては、会議や連絡ノート等を活用して、職員間で周知・検討の上、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションやミーティング、また半年に1度の考課査定の面接時等で意見を聞く機会を設ける。	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案を確認している。また、定期的に個人面談及び人事考課を実施しており、個々の意見・希望に配慮した上で、適切な人材育成に取り組んでいる。	今年度は研修の実施回数が少なかったが、今後は研修を計画的に実施し、職員の質の向上を図ることを推奨します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回行う考課査定で個々の状況を把握するとともに併設の特養やデイサービスなどその人に合った人員配置で向上心を持てるように努めている。		

【千葉県】グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合わせた介護力を身につけられるよう、助言や指導を行う等、職員の質の確保・向上に取り組んでいる。また、併設の特別養護老人ホームにて衛生管理委員会等が設置されており、委員会にて開かれる勉強会や事例検討会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に加入しており、他施設との意見・情報交換を行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は随時受け付けている。利用に至る場合、必ず2、3回の面談を行い、不安や疑問等への明確な説明を行なう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談は随時受け付けている。利用に至る場合、必ず2、3回の面談を行い、不安や疑問等への明確な説明を行なう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に沿った解決策(他のサービス利用も含め)を提案し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は、園芸や料理が得意な入居者からアドバイスを受けると共に、人生経験や生活の知識を学んでおり、共に支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、状況報告を行い必要に応じて協力をして頂いてる。		

【千葉県】グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約者様の禁止がない限り全ての方の面会に応じている。また、ご家族の要望に応じ、冠婚葬祭等への参加支援も行う。	友人・知人・家族の来訪を随時受け付けると共に、外出・外泊も自由となり、馴染み関係継続に配慮している。また、併設の特別養護老人ホームのレクリエーション活動や合同行事に参加する等、新たな馴染みの関係が築けるよう働きかけている。他にも、希望に応じて個別・少人数での外出を実施しており、入居者一人ひとりに応じた馴染みの場での楽しみも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の入居者への不満等に対しては十分な説明を行い理解し合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等は随時受け付け必要に応じて、転居先に訪問も行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族・本人と面談を行ない、本人・家族の意向や生活歴等を記録している。また、日々の生活において、本人・家族から意向を確認し、記録している。	契約時に本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認していると共に、医療機関や他事業所から引継ぎを行い、より詳細な情報の把握に努めている。会議や申し送り等を活用し、職員間で常に新しい情報が共有できるよう体制を整えている。	職員間で情報交換等を行い、常に新しい状況の確認や共有はできているものの、入居者の基本情報票の更新が進んでいない。今後は、定期的に基本情報票の更新を行う事により、常に新しい情報の蓄積に繋がり、ケアの実践に活かしていただく事を望みます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者・家族から生活歴など情報収集を行いアセスメントシートに記載している。その内容を折りにふれて話題にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩コース、入浴時間、レクリエーション、外出等において本人の希望と有する力を把握して支援している。		

【千葉県】グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画においては、会議にて職員が意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。また、面談時にて確認し本人・家族の意向や生活歴に合わせた介護計画の作成に努めている。作成後は、職員への周知を図ると共に、家族に説明を行い、了承を得ている。	本人・家族の意向を確認すると共に、看護師・医師と密に情報交換を行いながら、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認・評価を行っていると共に、必要に応じて介護計画の見直しを行っており、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や申し送りノートに個別記録し、情報の共有をして、日々のケアやケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養にくる理美容や訪問歯科を希望に応じて利用したり、ディサービスのレク参加し交流を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の地域での暮らし継続に向け、多様な地域資源の情報収集を行うと共に、ボランティアへの協力の呼び掛けにも取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望の掛かりつけ医への受診が可能となっており、希望により職員が通院を支援している。定期的に内科往診や歯科往診を実施し、口腔ケア・歯科治療がなされていると共に希望により訪問マッサージ、訪問リハビリ等も支援している。	希望の掛かりつけ医への受診や内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な医療受診を支援している。必要時には併設施設の看護師に相談やアドバイスを受けており、適切な健康管理を行っている。また、訪問マッサージの受け入れも行っており、身体機能の維持・向上に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームやデイサービスの看護職に相談を行なえる体制ができており、適切な健康管理が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いへ出向き、通院関係者から情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と十分に話し合い医師と連携を取りながら、入居者・家族の意向に沿った終末期の支援を目指している。	重度化・終末期における施設方針を契約時に説明し、同意を得ている。併設特養の看護職員の協力体制も構築されており、入居者や家族の安心に繋がっている。要望や状況に応じて、他サービスや医療機関への移行が必要となった場合は、状況に応じた適切な支援が行えるよう体制を整える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時のマニュアルがあり、新人職員には指導するが定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルや緊急連絡網を作成している。避難訓練・消防訓練を年に3回、併設施設と合同で行っている。訓練の時は、職員、入居者も参加していると共に、夜間を想定した訓練等も行われている。また、併設施設にて備蓄や緊急持ち出し袋が用意され緊急・災害時への対策がなされている。	スプリンクラー・自動通報器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、年3回の消防避難訓練を実施している。訓練では、併設施設と合同で夜間想定訓練・通報訓練等を行っており、状況に応じた対応方法の確認を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設独自に接遇ルールを定めており、その人に合った言葉遣いやさりげない介助を職員が意識していると共に、入浴・排泄時のプライバシー保護の重要性を意識し、入居者の尊厳を尊重したサービスを提供している。	身だしなみ・接遇・プライバシー保護等に関するマニュアルが整備されていると共に、会議等で言葉遣いや対応方法を都度確認しており、適切な支援の実践に努めている。また、入居者一人ひとりに合わせた対応を会議等で共有し、その人らしい生活に向けた支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その利用者の好きなこと、関心の高い話題等で希望を言いやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は定めておらず、本人のペースや希望に沿った生活を支援している。また、本人の希望に応じて散歩やレクリエーション等に参加してもらっていると共に、特技を生かした活動を支援しており、本人らしい生活を支援している。希望が言い出せない入居者に対しては、日々の観察や会話の中から希望を汲み取っている。		

【千葉県】グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段は本人が着たい服を着ている。外出・行事の時は目的や状況等最低限のアドバイスをし、本人が選べるように支援する。理美容も本人の希望により受け入れられように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の管理栄養士が作成した献立をもとに入居者の希望を取り入れながら行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立においては、法人の管理栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。定期的に特別食や手作りおやつを実施する等、希望や季節を取り入れた食事を提供しており、入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成していると共に、嗜好や能力に応じた食事提供がなされている。また、水分の摂取目標を定めており、食事・水分の摂取量を記録している。摂取量が不足している場合は、好みの物や摂取しやすい物に変更し、必要な栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの支援を行う。週1回来る訪問歯科に個人や家族の希望回数や症状により必要回数受診している。職員が歯科医師又は歯科衛生士より指導を受け、利用者の口腔ケアに当たっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握しそれに応じた支援を行う。不安や羞恥心への配慮から1対1の対応を行なっている。	排泄記録を活用し、個々の排泄パターンを把握しながら、声掛け・トイレ誘導等を行う等、排泄の自立に向けた支援を行っている。必要時には、併設施設の看護師や医師に相談する事が可能となっており、適切な排便コントロールを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食事のバランスを心掛け便秘予防をしている。		

【千葉県】グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者にとって衛生上必要と認められる 都度入浴。また、清拭等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。浴室は広く、床暖房も設置されており、快適な入浴を支援している。入浴拒否に関しては、声掛け等を工夫し、無理強いしないよう配慮している。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応しながら、適切な入浴機会を確保している。また、希望や身体状況に応じて、併設施設の機械浴槽を使用する事も可能となっており、安全で快適に入浴できるような設備が整っている。必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。他に、沐浴剤を活用し、入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好みやスケジュールに合わせて休憩や入眠時間を決めていく。寝具類も本人の希望を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルで各個人の薬の用法・用量・副作用等が分かる様になっている。医師の指示通り支援し、薬の変更があった場合には、申し送り、症状の変化を観察する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。毎日、トランプやジェンガ、歌等のレクリエーションを実施していると共に、園芸等の得意分野を活かした趣味活動を支援している。また、併設のレクリエーション活動や合同行事に参加し、楽しみを提供している。定期的な行事を企画・実施、家族や地域住民を招待し、様々な人との交流を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ毎日、散歩を行っている。定期的に外出を企画し実施しており戸外での楽しみを支援している。	入居者の希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出を行っている。また、定期的に、外出行事が実施されており、入居者の希望や季節に配慮しながら、戸外での楽しみを支援している。他にも、敷地内の花壇や植物の手入れ・外気浴の実施・隣接施設のイベントへの参加等、様々な機会を活用し、気軽に外出ができるように支援している。	

【千葉県】グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者にはしていただき、金銭管理できない、入居者は立替式をとっており家族にも同意を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望により支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設はバリアフリーとなっており、廊下や共有スペースは広く設計されている。リビングには、テーブルやソファが設置され、入居者が自由にくつろげる環境となっている。また、エアコン・換気扇・加湿器にて適切な空調管理がなされている。トイレ・浴室は十分な介助スペースが確保されていると共に、呼び出しブザーが設置され安全面に配慮されている。中庭には畑があり、ボランティアと共同で野菜や花の栽培を行っている。	施設内は十分な介助スペースが確保されており、バリアフリー環境が整備されている。共有スペースには椅子やソファを設置しており、入居者が自由にくつろげるよう配慮している。トイレや浴室には呼び出しブザーを設置しており、安全面に配慮した設備が導入されている。その他にも庭や駐車場等の施設敷地内を活用したアクティビティを実施しており、戸外での楽しみを支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いて、一人ひとりが自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により、馴染みの物を持ち込む事が可能であり、居心地よく生活できるよう配慮している。全居室にエアコンや換気扇が設置され適切な空調管理がなされている。全居室に洗面台が設置され利便性に優れていると共に、希望に応じてナースコールを設置し、安全面に配慮している。	希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できる様配慮している。また、テレビやポータブルトイレの設置も可能となっており、生活歴や身体状況に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵や収納スペースを設置する等、プライバシー確保を意識した環境作りを行うと共に、洗面台・エアコンも備え、利便性に優れ、快適な生活に配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に応じた介助を行いできるだけ自立した生活をしていただいている。また、随時所在確認等を行い、安全に配慮している。		